

# たぐろ

TAKUSUI  
No. 732

10  
October 2017

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



## 水産議員連盟と組合長懇談会 開催 ノリ採苗 はじまる

《今月の海上安全標語》 ～ 相互注意で行きましょう… ～

ライフジャケット未着用の仲間がいたときは…

もしもの時は家族や仲間など周りの人たちも困ります

**危ないぞ! 仲間を思えば 言えるはず** では、今月も安全操業で!

# ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

（ようこそとは航海用語で「宜しく候の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる」）

## でー部の活動

（二財）兵庫県水産振興基金 西上 幸作



5月より漁連より出向し、水産振興基金で大輪田塾・拓水を担当させていただいております西上と申します。誌面をお借りしご挨拶申し上げます。どうぞよろしくお願い致します。

異動出向に伴い、現在は単身赴任の真っ最中でありませう。優しい嫁の厳しい監視から逃れ、大好きなラーメン・うどん・パスタ等の麺類・揚げ物等の大量摂取で体重が増量。体のサイズが大きくなり、友人の小学校低学年の子に『雪だるまさん』と呼ばれてしまいました。

そこでダイエットとやらに取り組むことにし、モチベーション維持のために体重を測定しエクセルでグラフ化する事となりました。せっかくなのでこの取り組みにも名前を付けました。それが「デブ」をもじった「でー部」です。

「でー部」の活動は、まず、体重・BMI・体脂肪・内臓脂肪の数値を計測できる電子体重計での計量に始まります。数値は有能な藤○管理官がエクセル入力してくださいませ。そしてテレビでもダイエット効果が期待できると話題となった酢ショウガを入れたヨーグルトを食べ、希釈用リンゴ酢の水割り飲み、体の燃焼効果を高めます。してその結果は一目瞭然！私には変化なしです。（一緒に取り組んでおられる、あるお方はストイックに取り組まれ、停滞した時期もありましたが徐々に減少されております。）

この文が掲載される頃には、嫁子呼び寄せ、単身赴任も終わる予定です。乱れた食生活も終わり、厳しい監視のもと、少しはダイエットできればと思います。

皆様、私をお見かけの際には「体重どないや？」とお声かけいただき、ハゲましのお言葉を頂戴したいと思いますので宜しくお願い致します。

また、水産会館にお越しの際にはお気軽に水産振興基金へお越しください。様々な味のリンゴ酢を揃えお待ちしております。

## CONTENTS

No.732 October. 2017

- 2 ようこそ
- 3 兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会  
ノリ採苗作業はじまる
- 4 地引網体験  
解禁を祝う第9回香住ガニ祭り
- 5 摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会視察研修会  
兵庫県漁港漁場協会が一時移転
- 6 JF由良町の養殖アカウニがいよいよ試験出荷
- 7 神戸海上保安部からのお知らせ
- 8 海難事故をなくそう  
時と海の「あかし本」発売
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う  
大輪田塾だより



### 表紙の言葉

### 「ノリ水車採苗」(明石市)

画像提供 JF兵庫漁連 津田 英幸氏

水車を使ったノリ採苗作業は、秋の浜の風物詩で、ノリ養殖漁期の本格的な始まりを告げるものです。

水車に網を巻き付け、ノリの胞子の入った水の中を回転させ網に胞子を付着させます。その後、一度冷蔵庫で保管し、海水温が安定したところを見計らって海上に張り込む育苗、本張りなどの工程を経て、おいしい「兵庫のり」が作られます。

今漁期も事故無く、良いノリが出来ることを願っています。

# 兵庫県水産振興議員連盟と JF組合長懇談会



JFグループ兵庫水産政策協議会（田沼 政男会長）は9月22日（金）、神戸市のラッセホールにおいて、『兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会』を開催し、兵庫県井戸敏三知事、荒

木一聡副知事をはじめ、JF組合長と県議員、関係者ら約100名の参加のもと開催されました。

この懇談会は、燃油価格の高騰、漁業後継者の減少、魚価の低迷など漁業者だけでは解決できない課題が山積するなか、水産業の振興を図り、漁家経営安定の一助とすることを目的として毎年開催されています。

今年の懇談会はテーマを『但馬地区における沿岸漁業の現状と課題』として但馬地区栽培漁業推進協議会 中村 勲会長が発表し、テーマIIでは『瀬戸法改正から2年、今、瀬戸内海では…』としてJF兵庫漁連 突々 淳専務『栄養塩と漁獲量の調査について』は県立水産技術センター 反田 實参与、『兵庫県の取組と沿岸工場等による護岸等の改善を促す方策、豊かな海の生態系の維持に必要な窒素、リンの下限値の設定』を県環境部 秋山 和裕部長、最後に『環境配慮型構造物の実現に向けて』

として近畿大学 中西 敬講師の4名が担当し話題提供を行いました。

その後、「但馬地区における流通の課題」「環境配慮型構造物の詳細と実績」などについて多岐にわたる意見が交わされました。

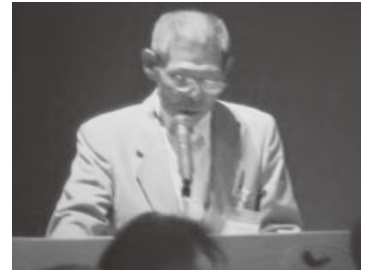
懇談会の終了後は、県議の方々とJF組合長との情報交流会となり、当日の講演テーマをはじめとして地域が抱える問題等についても活発に意見や情報の交換がなされ、盛会裡のうちに閉会となりました。（文：JF兵庫漁連指導部）



井戸知事も駆け付けられました



中西講師（JF兵庫漁連環境アドバイザー）の講演の様子



但馬地区沿岸漁業の現状を発表する中村勲さん

## ノリ採苗作業 はじまる!

JF兵庫漁連（田沼 政男会長）は、本年度のノリ陸上採苗作業を、兵庫県の研究所（明石市）で9月25日（月）から、淡路のりセンター（淡路市）では9月28日（木）から開始しました。毎年、気温が下がってきた9月下旬から行われており、朝6時頃から大勢の職員、パートの皆さんが作業にあたっています。



水車採苗の様子

兵庫のり研究所では12台の水車を使って採苗を行っています。担当職員らは、網を水車から外したり、新しく網を張り替える作業のほか、付着度合いを確認するための網切りと検鏡作業、水温・照度のチェックなどの業務に追われています。

のり海藻部 藤澤 憲二部長によると、明石・淡路の現場での作業は順調で、10月中旬までに両センターで種網約50,000反を仕上げるとのことです。本格的なノリ養殖開幕に、今漁期への期待が高まっています。



検鏡でノリ胞子の付着度合いをチェックします

## 地引網体験 ～淡路市尾崎で開催～



淡路市子ども会連絡協議会は、9月30日（土）にJF一宮町（社領弘代表理事組合長）の協力のもと、尾崎漁港の西側の浜辺で地引網体験を行い、淡路市内の小学生70名と保護者25名が参加し、仕掛けた網を「よいしょ、よいしょ」と声を掛けながら引き上げました。網の中にはタコやタイ、カニやハゲなど約50kgの魚介類がどっさり。元気に跳ねる魚に子どもはもろろん、保護者やスタッフからも大きな歓声が上がりました。

参加した子供たちが漁業を体験し、豊かな自然に触れることで、ふるさとを大切にすることを養うとともに魚好きなお子どもになってほしいと切に願います。

## 香住ガニ販売に長い列 解禁を祝う第9回香住ガニ祭り



カニシーズンの幕開けを祝う「第9回香住ガニまつり」秋の大型連休（シルバードウイーク）初日の16日、香住漁港西港で開催され、多くの家族連れらがカニ汁の振る舞いなどを味わい、旬の香住ガニを買い求めました。

関西圏で唯一香住漁港のみで水揚げされる香住ガニ（ベニズワイガニ）は、鮮度が抜群で筋肉繊維が細く、柔らかい身は甘みがあり値段もリーズナブル。漁期が9月から来年5月末までと長く、ほぼ周年味わうことのできるのが特徴です。色とりどりの大漁旗で飾られた会場では、恒例の竹ちくわ撒きや香住ガニ早食い大会、赤イカ解体ショーなど楽しいイベントも準備され、大変な賑わいとなりました。これから但馬の漁業は冬漁に向かいます。豊漁と海上安全をお祈りします。

## 摂津播磨地区漁業協同組合 青壮年部連合会視察研修会



摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会（大西 正起会長・JF伊保）は8月22日（火）、23日（水）の2日間、広島県のもみじ水産（呉市）・大野水産（廿日市市）で視察研修会を行い、部員をはじめ県・系統団体の関係者あわせて約30人が参加しました。

初日は、もみじ水産（呉市）を訪問し、しらすを主に6次産業化の仕組みや加工のこだわりについて研修を行いました。冒頭、代表取締役の三宅敏郎氏のあいさつの中で、坊勢出身で約10年前に移住し、当会社を設立したとの話があり、一同驚いていました。

その後、同水産の概要の説明・施設内の製氷機・冷凍庫等の設備の見学が行われました。もみじ水産では生シラスと大和わかめを主力商品として販売しており、直営店では、「生シラス丼」としても販売しています。

ちりめんは、一番網のみ、目視による選別をしたのち、強酸性電解水で洗浄、マイナス35℃にて急速凍結し、鮮度維持に努めています。また、定期的に生菌数を検査機関にて検査しており、安全安心に努めています。

施設の見学後、生シラスを試食し質疑応答を行い、初日の研修が終了しました。



冷凍シラス軍艦巻き試食



二枚貝海面育成装置

翌日は大野水産（廿日市市）にてカキ養殖について視察研修を行いました。

寺西芳明代表取締役から加工場施設の説明があり、その後加工場内の見学を行いました。加工場内には、洗浄選別の自動化が進んでおり、またエックス線選別機の導入など、相当な設備投資をしていることに、一同驚きをもって見学していました。当水産では一粒カキの養殖にも力を入れており、中間育成の段階で使用する「二枚貝海面育成装置」（フラブシー）の視察及び説明を受け、参加青年部員は非常に興味を持ち、積極的に質問を行っていました。

寺西代表より本年度の牡蠣を見せていただき、「今年度の牡蠣の出来は上々であり、例年並みの生産量となる見込みであるだろう」とのことでした。研修後、質疑応答を行い本年度の視察研修会は終了しました。

参加青年部員からは、非常に有意義な研修会であったとの意見が多く寄せられました。（文：摂津播磨地区漁協青壮年部連合会事務局）

## 兵庫県漁港漁場協会が一時移転



これまで事務所を置いていた「兵庫県林業会館」が建て替えられることになり、一時移転することになりました。

県庁から約7分、今の事務所から西へ300m約4分の所です。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

移 転 先：〒650-0013

神戸市中央区花隈町12番6号

第三大知(だいち)ビル5階

電話・FAX番号：078-351-6107

※変更ありません

移 転 期 間：平成29年10月26日（移転）

〜平成31年2月（予定）

最 寄 り 駅：阪急花隈・地下鉄県庁前・JR元町・阪神元町

JR元町・阪神元町

# JF由良町の養殖アカウニが

## いよいよ試験出荷

### 味、色とも天然と変わらない

JF由良町（川野正二組合長）で水揚げされるアカウニは味が濃厚で甘みがあり、高級食材として全国的に人気が高まっています。しかし天然の漁獲量は10年前の半分以下に落ち込んでいて、近年は需要に追いつかない状況が続いています。

そこで平成27年度から新たな取り組みとして県・市の支援等も活用して、JF由良町潜水協会（川北勝彦会長）が中心になって、アカウニ養殖試験を開始しました。養殖は（公財）ひょうご豊かな海づくり協会淡路事業場（淡路市佐野）から提供を受けた殻径約2cmの種苗を40個ずつプラスチックのコンテナに収容し、イカダから垂下して育成しています。エサには漁業者が潜って採取したアラメなどの海藻を使い、夏季には月2回、冬季は月1回のエサ換えを行いました。

アカウニがもっとも肥えて、漁獲量も少なくなる9月を狙った試験出荷です。大阪の中央卸売市場では1箱3、800円（約70g）で取引されました。

9月12日に漁協や県・市の関係者、報道陣を招いて開催した試食会では、天然アカウニと養殖アカウニの食べ比べをしました。吉村淡路県民局長をはじめ、新聞5紙、テレビ3局とアカウニへの大きな期待を感じる集まりとなりました。試食した出席者からは「少し小ぶりだけど、味は天然と変わらない」や「養殖の方が甘みを強く感じる」など上々の評価でした。川北会長は「出荷先での値段は初物のご祝儀相場の意味もあって、この値段でしょう。」と謙遜しつつ、「天然と同じ海、同じ餌で育てたウニです。味、色とも天然と変わらない。」と笑顔で語っていました。川野組合長は「高くて手が出ないと言われるウニを養殖で増やして、一人でも多くの人に食べてもらいたい。」と語っていました。

（文：県洲本農林水産振興事務所）



左：養殖、右：天然



# いのちの上着 ライフジャケットの常時着用！

右よし、左よし



みんなで着けよう



危ない!!!ぶつかる〜つつ!



海に落ちたら…

## 衝突防止 常時適切な見張りの励行！

### 海難・人身事故「ゼロ」を目指して

神戸海上保安部  
078(331)6743  
香住海上保安署  
0796(36)4999

### 海のもしもは118番

# 海難事故をなくそう!

## ～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか?

浮力合羽はJF兵庫漁連が開発したもので、皆様の安全をサポートします。

浮力は充分にあり、動きやすいように工夫されています。

まだお持ちでない方は是非!

※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。

モデル：南あわじ漁協4Hクラブ  
谷 真典さん(左)

仮屋漁協青壮年部  
相田欽司さん(右)



## ライフジャケットを 着用しよう!

ライフジャケットを着用することで助かる可能性は飛躍的に向上します。

自分自身のために、そして、家族のために是非、着用してください!

“平成30年2月ライフジャケット着用義務化はじまる!”

ライフジャケット・浮力合羽の購入は  
所属JFかJF兵庫漁連のり海藻部資材担当(078-942-9272)までお問い合わせください

## 時と海の「あかし本」発売

明石の代名詞ともいえる「時」と「海」。神戸新聞の明石版で2014年～16年に掲載したこれらの連載が今年6月、1冊の本になりました。タイトルは「あかし本」。副題は「時のまちを創る 海のまちに生きる」です。

海の章では、明石の一大産業でもあるノリ、春を告げるイカナゴ、ブランドイメージの高いタイ、全国的にも有名なタコを紹介。漁法や漁師の思いはもちろん、歴史、流通、加工、調理法から食育、環境、イベントなど、一つの素材をテーマに幅広く取材、執筆しました。写真やグラフ、図解を多用し、漁業と関わりのない一般の方にも分かりやすく、関心を持ってもらえるよう切り口や表現を工夫しています。

さらに、明石市内5漁協の組合長による座談会を開き、7時間も語り合ってくださった海や漁業への熱い思いも収録。組合長5人の素敵な写真が並ぶページを眺めると、元氣が出来ますよ。

時の章では、子午線や時の記念日をテーマに、市民の活動や思いなど



を載せています。

明石のまちや人の魅力が詰まった「あかし本」は明石市内の書店などで販売。A5判、オールカラー、168ページ。1,800円(税別)。出版社のペンコム☎078・914・0391

神戸新聞記者 金山成美

ときはいま 明石城人魚之巻

2017年11月3日 15時30分(15時開演)より、明石城櫓横で本に因んだコンサートパフォーマンスが行われます。(有料3,000円)

詳しくは、水産振興基金078-919-1331までお問い合わせください。



## 小学生が農作業&販売体験 JAグループのテレビ番組で放映

JAグループ兵庫は、近畿地区のJAグループと共同でテレビ番組を制作、放映します。JAグループが農業振興や地域活性化のために取り組んでいる自己改革の内容を広く知ってもらうことが目的で、番組名は「地域とともに 地域のために～暮らしを支える食と農～」。

番組では、近畿6府県のJAグループの取り組みが紹介されますが、兵庫県では、JA兵庫六甲に協力していただき、三田市内の大学生ボランティア、三田市、JA兵庫六甲三田地域青壮年部三輪支部、JA兵庫六甲三輪支店が企画・運営した農業体験イベント「大学生と親子で農業体験 in 三田」を取材しました。

このイベントは、三田市内の小学生と家族が、黒大豆枝豆の播種から苗づくり、雑草取りなどの管理、収穫、さらには販売まで体験し、農業の楽しさとともに厳しさも学ぶことを目的にしています。企画・運営は大学生ボランティアが主体となっており、JA青壮年部員やJA、三田市の関係者がサポートしました。

10月14日、黒大豆枝豆の収穫作業が行われ、その後、JR三田駅前子どもたちが対面販売を行いました。参加した子どもたちは、大きく元気な声で通行する人たちに販売を呼び掛けました。子どもたちの喜ぶ笑顔を撮影することができました。

番組放送は次の通りです。

日 時：11月26日(日) 午前11時～11時54分

放送局：サンテレビ

番組名：「地域とともに 地域のために  
～暮らしを支える食と農～」



自分たちで育てた黒大豆枝豆を元気に販売する子どもたち

## 社会的課題解決に連携・協同 の力で取り組むことを確認

～第29回近畿地区生協・行政合同会議～

テーマ：「安心してらせる地域社会づくりをめざして」

8月30日(水)、「第29回近畿地区生協・行政合同会議」が、シティプラザ大阪で開催されました。この会議は、近畿2府4県と福井県を加えた7府県の生協連合会で構成する「近畿地区生協府県連協議会」主催で毎年開催しています。各府県の自治体生協担当者等を交えた総勢47人が参加し、活動の交流と協働、連携によって安心してらせる地域社会づくりへつないでいくこと確認しました。冒頭、主催者を代表し木田克也会長理事から「今日のさまざまな社会的課題を解決し、安心してらせる地域社会を実現していくには、行政はもちろん、社会福祉協議会や地域の諸団体との連携を強化し、まさに寄ってたかって取り組んでいくことが必要」と挨拶。続くご来賓挨拶では、厚生労働省 社会・援護局地域福祉部の生協検査官 登内晋司氏から「生協は、地域づくりを進めていく上での重要な社会資源の1つ。行政もそのことをしっかりと認識してほしい」とお話されました。その後、日生協の渉外広報本部長の伊藤治郎氏から全国生協の社会的責任や社会的役割に関する考え方や到達状況の報告。特別報告として、特定非営利活動法人「消費者支援機構関西(KC's)」の副理事長で弁護士の片山登志子氏から『消費者問題の現状と課題について考える～行政と生協への期待』と題し、ご講演いただきました。各府県連からの事例報告もあり、兵庫県は、コープこうべ拠点づくり推進開発室統括の前田裕保氏が「拠点づくり」の取り組み～暮らしのお困りごとを考える～について報告しました。また、引き続き開催された懇親会では合同会議の感想や情報交換が活発に行われ、行政のみなさんへの生協理解促進と、連携への期待が高まる大変有意義な交流の機会となりました。



▶特別報告  
片山 登志子氏



# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## 海豹・海豚・海胆・海老・海髪 (アイウエオ)

◆タイトルはアザラシ・イルカ・ウニ・エビ・オゴと読む。海を五つ並べアイウエオとする漢字遊びである。海髪は余り馴染みがないが、刺し身のツマに使われたり海藻サラダに利用している紅藻だから、見ればアアあれかと判る。海豹をアザラシと読むのは江戸後期の漢和辞典に載っており古くから使われていたようだ。「海」を並べてアイウエオと読ませるのは、洒落として秀逸である。最近の子供の命名も、なかなか凝った読みをして、担任教師を悩ませていたという。「生」には二百通りも読みがあるとか。漢字能力検定でも複雑すぎる訓読みには泣かされたものだが、難しさに堪える愉しさがあったとも思うのである。

◆写研という会社の企画で『漢字読み書き大会』が、昭和47年の暑い最中に開催された。今も継続されているのには知らないが、筆者は何度目かに参加して難問に挑戦した。関西大学の千里学舎で受けた。冷房のない暑い講堂で汗ダクダクの45分間の熱戦で、遊びの精神を結集させた難問には、日常生活では得られない喜びがあった。団扇と扇子のバタバタ動く会場は、遊び心が一杯の熱気を呼び、沸騰しているように感じられた。同音や同訓異字など、日本人に必要な漢字知識の溢れた問題ばかりで、暑さと共に心底から満腹したものであった。

◆「正」の字は数字の「五」の意味に使われる。委員の選挙などで黒板に数を書き入れる際、ヨコ・タテ・ヨコ・タテ・ヨコと線を引くと、まさに正となつて数字の代わりをする。五の字にも似ており実に上手い記入法である。四方田大彦は本来の丈彦を誤植され、そのまま筆名にしたというのが、力士の海力山も海乃山と間違われ、そのまま四股名としている。吉川英治も英次を誤植されたままを押し通した人である。漱石のように洒落で筆名を決めた人も珍しいが、世界に広く知れ渡つて通り名になつて仕舞えば、登録商法のようなものである。

◆好きな漢字の百選では「誠」や「愛」が優勢だったが「海」や「魚」も何位かに入っている。四囲が海域の日本人には、切つて切れない想いがあるようだ。魚偏の鯛・鱈・鱧・鮭・鱒・鮠・鰻・鮒・鮓・鮠など、すっかり漢字になり切つた顔をしているが、実は日本で拵えた国字なのである。読書をしていると漢字の使い方、言い回しの巧い作家や、当て字の旨い人が実に多いと気づく。漢字の勉強は本に親しむ事だと、大いに推奨したくなる。故事成語の由来を知ることが苦にならず、愉しめるなら人生が楽しくなること請け合いだ。漢字が持っている面白さには、心底から遊べる喜びと愉しさと、深い文化を感じるのである。

# 大輪田塾だより

## 平成29年度 大輪田塾修了論文発表会

本年度の大輪田塾修了予定者が、これまでの研修の総仕上げとして行う大輪田塾修了論文発表会が、9月12日(火) 兵庫県水産会館で開催されました。東根 壽塾長をはじめ、運営委員や県・漁協系統役員ら約50名が出席するなか、大輪田塾11期生6名は、それぞれ任意の研究項目で作成した修了論文を発表しました。

発表後に行われた講評で、運営委員を代表して関西学院大学 田和 正孝教授から発表者全員の論文の単位が認定され、一人ずつの論文に対し詳しく評価がなされました。田和運営委員は「今年の発表は養殖、観光、地産地消など多岐にわたる立派な発表でした。これからも人のつながりを大切に、更なる発展と活躍を期待します」と話され、発表者は安堵の表情と共に、これまでの苦労が報われたよつてでした。



修了論文発表の様子



質問を受ける塾生

### 漁業経営の多角化

JF姫路市 長澤 良治(11期生)  
指導員: 佐藤 政男(県農林水産高水産課)

### 室津産アサリの振興

JF室津 小嶋 隆次(11期生)  
指導員: 岡田 佑太(県産農林水産振興事務所)

### 今後の魚食普及活動に向けて

JF但馬 川本 洋(11期生)  
指導員: 肥後 翔太(県但馬水産事務所)

### もつと坊勢を知ってほしい

JF坊勢 森 陽祐(11期生)  
指導員: 岩佐 隆宏(県産農林水産振興事務所)

### 青壮年部活動の光と闇

JF淡路島屋 山崎 大輔(11期生)  
指導員: 田村 一樹(県農林水産振興事務所)

### 浜のおかあさんの求めるもの

共水連兵庫農事務所 高田佐主里(11期生)  
指導員: 都倉 由樹(県農林水産高水産課)

(発表順: 敬称略)

【修了論文認定審査員】東根 壽塾長(兵庫県水産振興基金)・田和 正孝運営委員(関西学院大学)・高木 英男運営委員(県水産課)・堀 豊運営委員(県水産センター)・田中 稔彦運営委員(JF兵庫漁連)・近藤 敬三 運営委員(兵庫県水産振興基金)